

産婦人科医育成プログラム

2027年度定員 2名 (予定)

定員およびプログラムの詳細はホームページでご確認ください



▶▶▶ 2年間に慶應義塾大学病院で研修する、産婦人科医を目指す人のためのプログラムです。

※2年次のローテーションは順不同

| | | | | |
|-----|-----------------------|------------------------|-----------------|----------|
| 1年次 | 産婦人科 (8週) | 外科・小児・精神の1診療科 (4週) | 救急 (8週)+麻酔 (4週) | 内科 (24週) |
| | 地域 (一般外来・在宅医療を含む: 4週) | 外科・小児・精神 (未研修の診療科: 8週) | 産婦人科 (8週) | 選択 (28週) |

研修は産婦人科からスタート

- 麻酔科・救急科 1年次の救急科12週のうち8週を救急科研修、4週を麻酔科での救急部門の研修とします。
 - 一般外来 一般外来研修は、内科(総合診療科を含む)、小児科(慶應義塾大学病院でのみ)、外科および地域医療で4週間以上行います。
 - 小児科研修を新生児救急としてNICU研修とすることも可能です。
 - 産婦人科研修期間中に限り、産婦人科当直研修をすることが可能です。
- *当院の研修は休診日、GW、年末年始等を考慮し、1年を48週換算した週数にて研修を行います(4週は調整期間)。

MESSAGE from CENTER STAFF

産婦人科以外の診療科ローテートにこそ初期研修の意義

本プログラムは、原則、産婦人科医を志望する方向けにプログラムを組んでいます。
産婦人科の診療内容は多岐にわたります。妊娠、出産、不妊治療～悪性腫瘍の手術、化学療法まで、と内科的、外科的に側面を持ち合わせています。それ故、様々な関連診療科との連携が重要です。
実は、産婦人科以上に、そういった関連診療科をローテートすることが重要であり、選択期間を長く設定しています。
初期臨床は関連診療科側から産婦人科の姿を見られる良

い機会であり、指導医も志望をわかっている、「産婦人科医になるなら知っておいたほうがいいポイント」に絞った指導も望めます。より効率的な2年間になりますので、志望が決まっている方には特にオススメです。
また産婦人科一択でなく、他の診療科に進んだとしても、産婦人科的な視点、また女性を診療するということの基本が身につくというメリットがあります。志望によらず、女性のミカタになりたい方、お待ちしております！



[プログラム責任者]
卒業臨床研修センター
野上 侑哉

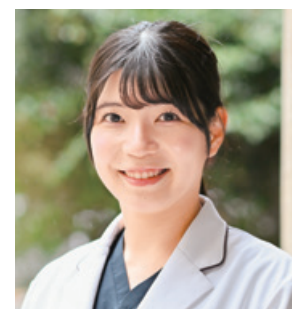
MESSAGE 04

【研修医からのメッセージ】

“やってみたい”がどんどん叶う産婦人科研修！

産婦人科育成コースでは、1年目の4月・5月に大学病院の産科・婦人科をそれぞれ1か月ずつローテートします(他コースは各2週間)。早い段階からじっくりと産婦人科に向き合える点が大きな魅力です。
さらに2年目には、希望する時期に産科・婦人科を最低1か月ずつ優先的に選択でき、研修先も大学病院に加えて地域の市中病院から選ぶことが可能です。加えて、本コースのみ産婦人科研修期間中に産婦人科当直を経験でき、より実践的な力を身につけることができます。
研修内容も非常に充実しています。産科では、経膈分娩や帝王切開、不妊治療を経験できるほか、超音波検査を実際に担当する機会も豊富にあります。婦人科では、腹腔鏡手術や開腹手術に助

手として参加し、積極的に手技を学ぶことができます。
また、慶應義塾大学病院には教育熱心で指導力に優れた先生方が多く在籍しており、手技の経験を数多く積むことができます。実際に自ら手を動かしながら感覚を身につけ、検査や治療の意義・原理まで丁寧に教えていただけるため、日々深く、実りある研修を実感しています。
研修医同士の仲も良く、診療中は互いに教え合い高め合える環境です。休日には旅行や食事を楽しまれることもあり、仕事とプライベートのどちらも充実した日々を送っています。
産婦人科を志す方にとって、大きく成長できる環境が整っています。
ぜひ私たちと一緒に慶應で研修しませんか。



2025年度
産婦人科医育成プログラム
大河内 愛
(2年間、慶應義塾大学病院)